



見沼たんぼくらのイベント

見沼ふれあい農園づくり 里芋・八つ頭

5月1日に植え付けた種イモが4か月（9月1日現在）を経過し順調に生育しています。今年は雨が少なく育苗が心配されましたが茎も太く葉も大きく茂っています。

畑の耕作面積1反5畝に里芋が4.2畝（うね）、八つ頭が5.3畝、生姜が1.0畝あり一畝あたり25～30苗が植わっています。植え付け後の作業はおおむね2週間毎に除草を中心に臨時の1回を含め全部で6回実施し8月5日に終了いたしました。なお、6月11日の2回目除草作業には社会福祉法人久美愛園13名の皆さんに除草の体験学習をしていただきました。

その後8月21日には生姜のためし掘りを行い立派な葉生姜の収穫ができました。

出席者は毎回15名ほどでしたが参加者の声をききますと、「雑草の伸びが早いのは驚きました。前回きれいに刈り取ったのに同じ場所で前回以上に成長していました。農家の大変さが分かります。」

「暑かったですね。でも草取りは皆さんと雑談しながら楽しくすることができ皆勤で頑張りました。秋の大収穫が楽しみです。」等の感想がありました。

秋の収穫ですが10月28日（月）里芋・八つ頭のためし掘りを実施。11月28日（火）福祉団体に寄贈予定です。



（三上 雅央記）

第92回 見沼塾 「映像で見る見沼の自然」

日時：平成25年6月8日（土曜日）13時30分

講師：佐々木 明男（芝浦工業大学名誉教授）

昨年とほぼ同じ形式で、見沼の歴史と風景を約120枚のスライドを使っての解説、ご講演。

縄文時代前期（約6千年前）の見沼は、武野国第一の大沼であったがやがて東京湾から分離、広大な湿地帯が形成された。

江戸時代に入り、徳川家康が寛永6年（1929年）に関東郡代伊奈忠治に命じ見沼溜井と八丁堤を完成させ、その後享保12年（1728年）に、将軍吉宗が紀州から井沢弥惣兵衛を江戸に呼び寄せ、見沼の干拓と代用水を開削。更に見沼通船堀も完成させ、見沼代用水は、利根川から取水をする約60kmに及ぶ大工事であったが、わずか1年足らずで完成させたという。

見沼の風景は、見沼代用水東縁・西縁、加田屋川の土手に咲く花々（桜、菜の花、ノアザミ、藤、ヒガンバナ）など、自然観察や、市民の憩いの場所として存在も、力説された。そして、『見沼田圃に親しみ、見沼田圃から学び、見沼田圃を守り育てることを地道にやって行く』という、講師のお気持ちが如実に伝わった講座であった。

（中村 敏和記）



見沼たんぼくらのイベント

第93回見沼塾「見沼代用水の歴史と現状」

6月18日、見沼グリーンセンターにおいて、第93回見沼塾が開催された。タイトルは表記の通りで、講師は見沼代用水土地改良区企画調整室室長の清水実氏である。

当日は6月とはいえ蒸し暑い一日であったが、用意された膨大な資料をもとに終始熱のこもった話をされ、会場はますますヒートアップされた感じであった。

用意された資料についての説明は省略をするが、約50枚のスライドの中から要点のみを紹介することにす。

見沼の開発は徳川家康が江戸城に入って間もない文禄年間（1592年—5年）に、当時関東郡代を勤めていた、伊奈半左エ門忠治によって見沼溜井と八丁堤が築提されたことに始まる。

その後享保10年（1725年）になって八代將軍吉宗は見沼溜井の新田開発を行い、紀州生まれの井澤弥惣兵衛永に命じ利根川から取水することで、約60キロに渡る見沼代用水を完成させた。

こうして従来までの水不足は大幅に解消され、米の増産を生み洪水を防ぐといった治水上の問題も大きく前進をした。

幕府財政の立て直しと、江戸の繁栄を支えることとなった、見沼代用水は、全国でも指折りの一大用水路となっている。

土地改良区は、昭和27年の土地改良法の公布を受け、昭和32年に見沼代用水土地改良区に名称が変更された。

この団体は、農業生産を行ううえで必要な用水路、揚水機場、堰、樋管などの「施設」の整備や管理及び円滑に水田に用水が届くよう「農

業用水配分」を行い、農家の受益となる農地面積に応じて徴収される「賦課金」をもって運営されている農業法人である。

その区域は、埼玉県北東部の利根川より東京都北東部の都境まで埼玉県東部地域を南北に縦断し、行田市より川口市まで16市2町にまたがる南北約60km、東西約20km、の平坦な地帯となっており、管理水路は28水路総延長約191kmである。

最後に、井澤弥惣兵衛永の業績として忘れてならないのが、昭和31年に県指定史跡となり、日本有数の古さの閘門式運河として広く知られている、見沼通船堀である。

個人的に感心をしたことは、パナマ運河のできる183年も前の時代にこれだけ高度な技術が使われたということである。当時の測量法や花火やちょうちんを使ったユニークな方法



など、中・高生や学生達若い人にも聞かせてやりたい内容であった。

演者の清水氏の写された数々の写真を拝見して、他人が作ったデータに甘んじることなくご自分の足でこれだけの資料を作られたことに頭が下がる思いがした。

少々残念に思ったことは、質問の時間が少なかったことで、演者には講座終了後もしばらく足止めをさせてしまったが、充実をした2時間であった。

(佐々木 明男記)

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

さいたま市立大宮東小学校総合学習
未来に残そう！ふるさとの自然

6月19日（水）9時～12時10分
児童：4年4学級133名（8班編成）
引率教員：5名 付添父母：8名
自然観察指導員：10名
カメラマン：1名
企画：NPO法人自然観察さいたまフ
レンド



コース：大宮第二公園WC…見沼代用水西縁…
見沼1丁目田圃…芝川…大宮体育館WC…大和
田緑地公園特別緑地保全地区…芝川左岸第7調
節池…大宮第二公園WC

学級担任の先生からのコメント

「見る・聞く・触れる等五感を使って自然に
ふれながら、指導していただき、たいへん参考
になった。実際に生き物を捕り、観察し、自然
に返すことで、地域の身近な所にも沢山の生き
物が生息していること、その生き物の特徴や生
命の大切さも学ぶことができた。

これから、今回の環境学習をもとに、自分が
調べたい生き物を選び、それについて深く調べ
互に発表しあう学習に取り組む予定である。

その後、私たちが別の行事で同じコースを歩
いていたら、そこかしこで1日だけの教え子た
ちに出会った。田圃では、大勢で水の生き物を
網で掬っていた。捕まえたトウキョウダルマガ
エルを嬉しそうに見せて、「絶滅危惧種だから
田圃に返しますから。」と言う。斜面林では、
遠くから「小野先生だ。」と言う声、振り返
ると、お父さんと一緒に歩いていた。

芝浦工業大学システム理工学部
環境システム学科環境調査授業

見沼たんぼ・自然観察&調査と雑木林体験

6月22日（土）9時～16時
学生：2年選択35名（5班編成）
引率教員：2名
企画：NPO法人自然観察さいたまフ
レンド

コース：大宮公園駅前…大宮公園…氷川神社…
社寺林

見沼代用水西縁…大宮第二公園WC…芝川…
三面コンクリ護岸 樹木のCO₂吸収量調査
大和田緑地公園特別緑地保全地区…
屋敷林・谷地・雑木林&林床の植物、下草刈り
(水質検査、昼食休憩)

…大宮体育館WC…芝川・石橋…見沼1丁目田
圃

自然護岸 湿地の植物

大宮公園駅前



様々なフィールドワークの中で、特に印象に
残ったことを学生たちに聞いてみた。

「樹木のCO₂吸収量計測で、1年365
日走行する乗用車の出すCO₂を落葉広葉樹
およそ2本で吸収してしまうことに驚いた。」

「芝川は、生活排水の流入があっても、自然護
岸のお蔭で、溶存酸素が多く汚濁もある程度浄
化され、魚類が繁殖し、カワセミもいること。」

「斜面林の林床と田圃の湿地に動植物の絶滅
危惧種が集中していることです。」

(小野 達二記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

「フナノと藁ボッチ」(さいたま市見沼区加田屋新田)

農家では脱穀した後の藁を冬季保存するために「フナノ」とか「ボッチ」などと呼ばれた藁塚を造り、藁は家畜の飼料や竈の燃料に、また米俵やむしろなど日常生活に利用してきた。左方が「フナノ(地方によって呼名は変わる)」右は「藁ボッチ」。加田屋新田の10月下旬「見沼ファーム 21」(島田由美子理事長)の会員が篤農家の指導でこれを完成した。現在は殆どが天日乾燥から機械乾燥にかわり、稲藁の需要も減少したのでフナノなどの姿を見ることは少なくなった。

絵と解説 八木一郎



「みんなで作った ハザ(稲がけ)と案山子」

(さいたま市見沼区 加田屋新田)

2012年9月30日 日曜日 NPO法人「見沼ファーム21」(島田理事長)の人々によって、親子参加の稲刈りが行われた。

5月の田植え以来、毎週のように草刈りをして育てた稲、乾燥の為のハザも完成。しかし、その夜大型台風によって折角作られたハザが残念ながら全部倒されてしまう。幸いに台風一過の翌10月1日は快晴となり、子供たちの手で作られた倒れた案山子も含めて、ボランティアの方々により立派に復元された。ご苦労された人々に感謝しながら、スケッチさせて頂いた。



参加した子供さんらの投句が楽しい。

「田んぼをね 守ってお願い! かかしさん」(細貝麻衣さん)

「田んぼでね いきものしらべ たのしいな」(ニッ森ちささん)



「加田屋新田の桜並木」

見沼くらしの館の東、締切橋近くから七里方面を遠望。

平成桜の並木道は七里までつづいており、桜の季節は多くの人々が訪れる。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

「民家園」 作者 川上俊子

浦和くらしの博物館 民家園の野口家住宅(左)
・武笠家表門(右)を写生しました。

梅雨の晴れ間の短い時間でしたが、風にそよぐ竹林に囲まれた静かなたたずまいの藁ぶき農家と向き合いました。

心の落ち着く幸いなひと時でした。



見沼たんぼ探訪記

夏夜を楽しむ「ホタルの夕べ」

昔は見沼たんぼには沢山のホタルが飛び交っていたが、残念ながら今ではその様子は見られない。このような中で6月29日(土曜日)、見沼通船堀公園で「ほたる観賞」が、「ホタル観賞と音楽の夕べ実行委員会」によって開催された。

土曜日の夜とあって、子供さんと一緒の家族連れの方々が多く、中には浴衣を着、ウチワを持つ姿なども見られ、夏の夜の涼しさを楽しむ気持ちが伝わってくる。昭和20～30年代の頃は、一般家庭にはエアコン等は無かったものだから、浴衣姿にウチワを持って、道端に並べた「縁台」に座って涼を求めているので、こうした姿は実に懐かしい。

夜8時頃ともなればすっかり暗くなり、公園の裏側にある木道に沿って歩くと、見沼通船堀の水路の上を淡い光がスーッと、スーッと・・・と飛んでいる。私の前を歩く小学生の男の子が、「居る、居る・・・、ホラ、ホラ・・・、光っているよ」と、大きな声をあげて足下の藪に向



かって指をさした。ホタルだ。薄い光で白とも言えず、淡青とも言えずの色の

光で、見ていると闇の中に吸い込まれてしまいそうである。

こうした幽玄の光に心を奪われた人たちが、木道の水路側に立ち並び観賞するので、木道は大混雑である。主催者側の話によると、今回、放散したホタルは「ヘイケボタル・約1000匹」という。一部は蚊帳状の網籠の中に入れて光を放っているが、採卵のために入れているらしい。この卵を孵化させて、来年の「ホタルの夕べ」に登場させる予定らしい。

「ホタルの夕べ」にこれほど沢山の観賞者が訪れるとは、実のところ予想外であった。

(召田 紀雄記)

大宮南部浄化センター

自然庭園・学習コーナー

大宮南部浄化センターは平成15年3月に施設更新する。その際に併設されたのが同センター内の自然庭園と学習コーナーである。自然庭園は施設南側の芝川右岸に隣接した位置にあり見沼地域の自然環境を還元し、雑木林・湿地帯・せせらぎ・池などで形成される。

自然庭園は同センター敷地(15千㎡)の半分以上を占め、その植生は見沼地域に普通に見られる種が中心で、樹木ではエノキ・ケヤキ・コナラ・シラカシ・スダジイなどであり、設置して12年を経過しており太い幹に生長し、たねを付けている樹木も多い。

野草もシュンラン・タコノアシ・ミクリの様な絶滅危惧種から見沼で見慣れた種が多く生えている。主要な個体には名札(大雑把だが樹木43種・野草40種確認)が付けられ観察の手助けになり、類似の種では比較観察が出来る。

池では澄んだ水中にモツゴ・カダヤシも泳いでいる。鳥達も多く訪れる場所であり冬季には水鳥が多い。昆虫類も豊富である。

学習コーナーは「みぬま見聞館」とも呼ばれエントランス(玄関)ゾーン・いとなみゾーン(管理棟2階)・ささえゾーン(処理棟2階)が設けられ、見沼の自然の実態、都市生活の中でのし尿処理を通じて水環境の浄化・保全についての学習を場として、地域の幼稚園・小中学校などからの見学も多く、いとなみ・ささえゾーンを結ぶ西側の廊下には感想文や観察写真が展示されている。

エントランスゾーンには、魚やヘイケボタル飼育の水槽が置かれ、パネルの展示、関連資料が用意されている。いとなみゾーンには、6台の望遠鏡が設置され、芝川を含めた周辺地域や自然庭園を2階から観察でき、モニターなどもあり、パネルなどで見沼の歴史・伝説や自然を学習できる工夫がなされている。ささえゾーンでは生活排水の浄化の仕組みや地球環境について、マジカルシアターや環境図書館がある。

(若野 忠男記)

見沼たんぼの仲間たちNo.27

「浦和西高斜面林友の会」

活動のきっかけ

見沼たんぼが水田だったころの斜面林は、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹が豊かに茂る雑木林でした。落ち葉で堆肥を作り、薪炭を台所の燃料に利用し、木材を伐採し農具や家具を作る、見沼の斜面林は農村の生活を支える林でした。

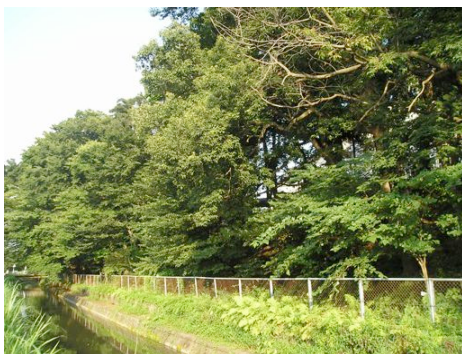
しかし、米の減反や石油の利用をきっかけに放置された斜面林は、温暖地特有の照葉樹が密生し、陽も風も当たらず、下草も全く生えない荒れ果てた過密林となりました。

1999年に始まった浦和西高開放講座でこのことを知った私たち受講生は、2003年に「浦和西高斜面林友の会」を立ち上げ、放置されていた西高斜面林（見沼代用水西縁の斜面約20メートル×東西の長さ200メートル）の再生と保全を目指して活動を開始しました。



活動内容

照葉樹を伐採し、土中のゴミやガラを除去し、土を埋戻し、斜面の崩落防止柵を整備しました。斜面林の落葉広葉樹のどんぐりを育苗、下草を移植しました。10年を経過した現在は絶滅危惧種を含む多くの貴重な下草が再生しています。



定例活動は毎月第2土曜日午前に実施します。生物を観察し、清掃、草刈、枝木の伐採、堆肥を作ります。作業前に10分間講座で学習し、

ミーティングでは斜面林の情報を共有し、今後の作業方針を決めます。私たちは素人の集団なので、すべて話し合いで決めています。

秋には収穫祭を行います。その他に見沼たんぼを観察しながら歩くプチ散歩、三富新田や利根大堰などの見学会、赤山街道などを体験するウォーキングなどを時々行います。



「浦和西高開放講座」はほぼ毎年行っており2012年に第12回目の講座を主催しました。会報誌「実生（どんぐり）」は、活動開始の2003年以来、毎月1回発行しており2013年8月で第118号となりました。年4回の「芝川&見沼たんぼ清掃」も近隣の友好団体と共催しています。

表彰

2012年6月、第23回全国「みどりの愛護」のつどいにおいて、浦和西高斜面林友の会は、国土交通大臣から表彰を受けました。



友の会会員募集

毎月第2土曜日の午前中、埼玉県立浦和西高斜面林に来て、作業中の会員に声をかけてください。年会費1,000円（月額83円。会費はボランティア保険、諸連絡費、収穫祭などの食材費に使います）。入会金無料。

埼玉県立浦和西高斜面林友の会

代表 中村克己

見沼たんぼを支える農家さん

「小熊果実園」 小熊勇さん・泰子さん をお訪ねして

幸水、豊水、^{なんすい}南水、新高、^{さいぎょく}彩玉、^{かおり}香、にっこり、…これ何だと思いませんか？全部、小熊さんが栽培している梨の種類です。

見沼区中川の住宅地の真ん中に、青いネット

に囲まれた梨とブドウの畑があります。ちょうど前の日から梨の収穫が始まったということで、玄関には今日発



送する梨の箱が山積みされてお客さんがひっきりなしに訪れるお忙しい中、お二人にお話をうかがいました。

勇さんは農家の三男坊でしたが、お兄さん達が家を出て仕事に就いてしまったため、家に残って運送業をしていた勇さんが継ぐことになったそうです。それまでは米・麦・野菜を作っていました。勇さんの代になって栗林を開墾して梨を、麦畑のあとをブドウ畑にして果樹の栽培を始めました。というのも、伊那、蓮田、白岡などの梨やブドウの産地の農家から稲藁を仕入れてそれを秩父や都内や千葉などに卸していた関係で、栽培についていろいろと聞き知っていたからです。都内に藁？と思いますが、学習院や成城などの大学の馬術部や中山競馬など、厩舎には藁が必需品だからね、と聞いて納得。栽培を始めてみると年々注文が増え、それに合わせて面積も広がり、今では梨とぶどうだけで40アールになります。泰子さんと二人でこの他に見沼田圃で米や野菜も作っています。

販売は自宅での直売がメインですが、加茂宮の直売所にも卸しています。市場に出すには一

度にまとまった量が必要ですが、直売だと長い期間にわたって収穫できたほうが便利。多品種栽培だと収穫時期が長くとれるので直売には向いているんだよ、と飄々と楽しそうに語る小熊さん。聞いているだけで、食べ較べしてみたい！と心が弾みます。

新しい品種は農業新聞の記事などを参考にしているということですが、常に新しいものに挑戦するそのチャレンジ精神と好奇心、私も見習いたいと思いました。

まあ後10年かな、体も続かなくなるし、ちょうど生産緑地の期限も来るし…と、さらりと語る小熊さんの言葉を聞いて、こちらがどきり！今、市街化区域内の貴重な緑地として残っている生産緑地。後継者のいない場合は継続が難しく、後約10年で指定後30年という期限がくるのです。高齢化、後継者不足という問題を抱え続けている農業。

最近では新規就農者の増加という明るい話も増えてきていますが、地元の農業者がやめてしまうと音頭を取る人がいなくなるのでいろいろ難しいと小熊さんは心配しています。

「農地」という日本の貴重な資源をどうやって次に繋いでいくことができるのか、私達皆が考えなければいけない時期にきているのだと改めて思いました。

小熊果実園

見沼区中川 875 (tel.048-684-2682)

(取材：島田・高橋、文責：高橋)



見沼たんぼくらのイベント案内

見沼たんぼ・清掃ボランティア(約4km)

日時：11月4日(月・振替休) 10時～12時

集合：市民の森 見沼グリーンセンター正門

■見沼たんぼを貫流する芝川の神明下橋～石橋周辺を散策しながら、ゴミを收拾します。

*申込み：当日、集合地で9時30分から受付

*記念品進呈

交通：宇都宮線土呂駅東口から徒歩約10分

(見沼代用水西縁・川島橋の東側)

見沼たんぼウォーキング(約7km)

日時：11月10日(日) 9時～12時

集合：JRさいたま新都心駅改札口の向側

■さいたま新都心の東方に広がる見沼たんぼを歩き、合併記念見沼公園の秋祭りの中でゴール

*申込み：当日、集合地で8時30分から受付

*記念品進呈

見沼塾『紅葉狩り&フィルム押し葉づくり』

日時：11月30日(土) 9時～12時

会場：市民の森見沼グリーンセンター2F会議室

■市民の森を散策して落葉を拾い、粘着フィルムと台紙を使って即席押し葉づくりを学びます。

*申込み：当日、集合地で8時30分から受付

*会員外の方には材料費等で参加費¥500

交通：宇都宮線土呂駅東口から徒歩約10分

(見沼代用水西縁・川島橋の東側)

斜面林の体験学習

『雑木林の保全作業・落葉かき』

日時：12月15日(日) 9時30分～12時

集合：さいたま市立大宮体育館正門

■さいたま市みどり愛護会の協力で、大和田緑地公園特別緑地保全地区の森林を散策し、落葉かきの作業を実習します。

*申込み：当日、集合地で9時から受付

交通：東武野田線大和田駅から徒歩約15分

会員の主宰するイベント情報

見沼ぶらり・おもしろ自然観察

日時：10月6日(日) 9時30分～12時

集合：大宮第二公園南管理棟

①秋の野の花を楽しむ 小野 達二氏

②氷川の杜の樹木と歴史を訪ねる佐々木明男氏

③名残の虫を訪ねて 五十嵐 力氏

④つる植物を調べる 松島 昇氏

主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

参加費：¥500(中学生以下は無料)

交通：大宮駅東口からバス⑧宮下・岩槻各

行き「芝川」下車、北側

第10回さいたま市みどりの祭典

日時：10月19日(土) 9時30分～16時

20日(日) 9時30分～15時30分

★みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを守り育てましょう！という合言葉の下に、市民参加型のイベントです。

※ご見学いただき、宜しければ、貴方の所属団体の来年参入を検討しませんか。

(小野 達二)

「見沼たんぼくらぶ」へのお誘い

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介して下さい！

「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう！

個人・団体・法人とも1口¥1000円です。

みぬま通信第56号

発行日 平成25年月10月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田野

1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2013 Minuma Tuusin